

繁華街の機能・空間集積と地域コミュニティの相補関係と

まちの持続性 その4

日大生産工(院) ○小出 千容 日大生産工(院) 馬場 祐希
日大生産工 北野 幸樹

1. はじめに

現在の日本は、新たな建物の高層化や店舗運営者の高齢化により、繁華街で培われてきた地域コミュニティが減少傾向にある。繁華街が地域居住者の生活やコミュニティにどのように影響し、相互に補完しあっているのかを考察することは、地域の持続性やまちづくりにとって極めて重要である。これらにより、地域コミュニティ機能の維持は大きな課題となっている。地域一帯を繁華街とする際、まち全体で活気を生み出すには、商業空間以外の要素や他者との関係性が重要である。

繁華街は、郊外での大型店舗の進出やコロナ禍での店舗経営の難化により衰退が進んでいるが、繁華街は単なる買い物の場所に留まらず、長い時間をかけて形成された地域コミュニティの一環であり、地域資産としての価値を再評価して、繁華街の今後の役割や在り方について検討することが求められている。

2. 調査概要

調査は、令和5年6月から令和6年8月までの期間で、新宿ゴールデン街から2キロ圏内の地域居住者を対象とし、アンケートを送付・回収して分析を行った。上記の対象地域を図1に示す。

アンケートの分析方法は、単純集計と自由記述欄の計量テキスト分析によるものである。単純集計により回答の全体的な傾向を捉え、自由記述は新宿ゴールデン街に求めていることについての回答を得て、計量テキスト分析を行う。新宿ゴールデン街での経験や新宿区のまちづくりへの取り組み、想いや将来像を分析し、繁華街の存在意義や持続性について考察する。

3. 調査対象地域の概要

3-1新宿ゴールデン街の概要

新宿ゴールデン街は、太平洋戦争後にできた闇市が起源であり、移転や廃業などの歴史を経

て飲食店街として再出発した。その後、文化人が集う場所として知られるようになったが、再開発や不審火騒ぎ、景気後退などにより閉店が相次いだ。平成4年に新借家法の施行で、若者達が新規店舗を求め入店し、組合やオーナーらの団結もあり、再び活気づいた。

3-2新宿ゴールデン街周辺の地域居住者 (表1)

アンケート回答者の職業は会社員が一番多く、定年退職された方も多し。以前の居住地は新宿区内が一番多い。80%以上の方が20年以上新宿区に住んでいて、出生時から新宿区内に住んでいる方もいる。



図1 対象地域

表1 新宿ゴールデン街周辺の地域居住者

性別		居住年数		年齢		以前の居住地	
男性	36	1~4	1	20~24	1	新宿区	15
女性	32	5~9	4	25~29	0	杉並区	2
無回答	2	10~14	5	30~34	0	中野区	2
合計	70	15~19	3	35~39	2	千代田区	1
		20~24	9	40~44	3	渋谷区	1
		25~29	3	45~49	5	世田谷区	1
		30~34	2	50~54	5	目黒区	1
		35~39	1	55~59	9	中央区	1
		40~44	9	60~64	7	練馬区	1
		45~49	3	65~69	8	町田市	1
		50~54	8	70~74	8	日野市	1
		55~59	2	75~79	6	小平市	1
		60~64	2	80~84	8	千葉県	3
		65~69	6	85~89	3	埼玉県	3
		70~74	5	90~94	2	神奈川県	3
		75~79	4	95~99	0	福岡県	2
		80~84	1	無回答	3	東北地方	1
		85~89	0	合計	70	無回答	30
		90~94	0			合計	70
		95~99	0				
		無回答	3				
		合計	70				

職業	
会社員	12
会社役員	6
主婦	8
パート	1
自営業	6
公務員	1
アパート経営	1
教員	1
不動産賃貸業	1
町会長	1
施設整備員	1
企業顧問	1
音楽家	1
団体職員	1
クリーニング業	1
法人役員	1
飲食業	2
自営(飲食)	1
無職	10
無回答	13
合計	70

Study on Relationship between Functional and Spatial Concentration of Downtown and Complementarity of Local Community and Sustainable of Town Part4

Chihiro KOIDE, Yuki BABA and Koki KITANO

4. 新宿ゴールデン街に対する意識

4-1新宿ゴールデン街の満足度調査 (図2)

新宿ゴールデン街周辺の地域居住者に対し、新宿ゴールデン街周辺の「交通アクセス」「買い物」「景観」「賑わい」「安心・安全」の満足度を五段階評価により調査した。「交通アクセス」「買い物」「賑わい」は評価が高い。これは公共交通機関が十分に整備され、周辺に店舗や住居などが密集しているからだと考えられる。「景観」「安心・安全」は評価3が最も多く、様々な職種や年齢、性別の方が集まり、お酒を飲むなど、夕方から深夜にかけて賑わう街であり、危険なイメージを持つ方が多いことが、このような結果をもたらしたと考える。上記5項目を総評した結果は、評価3が最も多いが、評価4と評価5の割合を足すと、48.4%であり、約半数が満足感を示している。

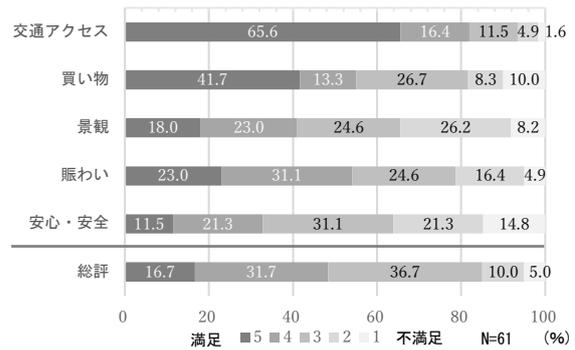


図2 新宿ゴールデン街の満足度調査

4-2新宿ゴールデン街の利用頻度と人数 (図3)

新宿ゴールデン街周辺の地域居住者への新宿ゴールデン街の利用頻度についての調査結果は、年0回が54.2%で半数以上であった。また利用人数は、半数以上が複数人での来街であり、単独利用は16.2%である。地域居住者にとって新宿ゴールデン街は、日常的な利用場所ではなく、「社交の場」として認識されている。

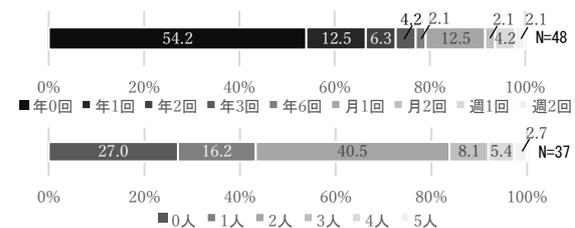


図3 新宿ゴールデン街の利用頻度と人数

4-3新宿ゴールデン街と周辺の存続性 (図4)

新宿ゴールデン街と周辺の今後の必要性についてのアンケートでは、「新宿ゴールデン街は大切であり、これからも続けてほしい」が一番多く、40.5%であり、次いで、「新宿ゴールデン街と周辺の両方が大切であり、これからも続けてほしい」は31.6%であった。半数以上の地域居住者が、実際には新宿ゴールデン街を利用していないにもかかわらず、大切でこれからも続けてほしいと考えている点は、新宿ゴールデン街がその歴史的・文化的な価値や地域性に深く根付いていることを示唆している。

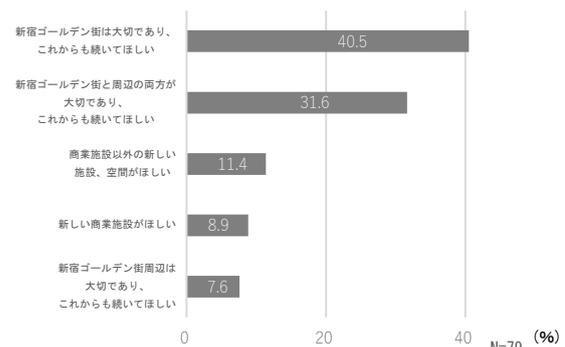


図4 新宿ゴールデン街と周辺の存続性

4-4新宿ゴールデン街の満足度調査 (図5)

現在住んでいる場所に住み続けたいかの回答では、「ずっと住み続けたい」が65.1%以上であり、「転居したい」と回答した人は1.6%であった。地域居住者の方の多くが、出生時から新宿に住み続けている背景を踏まえると、地域に対する強い愛着や長期的な居留意欲が伺える。

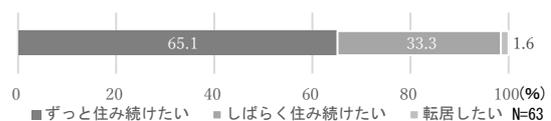


図5 現在の居住地への継続居留意思

4-5新宿ゴールデン街の満足度調査 (図6)

新宿ゴールデン街へ求める環境についての回答では、賑わう場・憩いの場・交流の場が求められている。「リモートワークが出来るような環境・空間」の回答数が少ないことは、新宿ゴールデン街には仕事の要素よりも遊びの要素を求めていると推測できる。

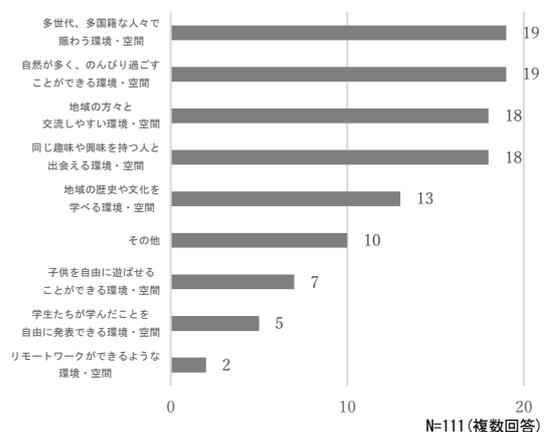


図6 新宿ゴールデン街に求める環境

5. 地域居住者のまちづくり活動

5-1まちづくり活動・取り組み (図7, 図8)

地域居住者のまちづくり活動に対する認知度についてのアンケート調査では、60.6%が取り組んでいることについて知っていた。まちづくり活動に対する認知度は高いことがわかる。また、取り組みの意欲に関する設問では、32.8%が活動に取り組む意欲はないとし、31.3%が積極的に活動していることから、活動に参加している人とそうでない人が二分している状況が確認できる。また、16.4%が活動に関心はあるが方法がわからないと答えており、活動内容の発信が重要だと考えられる。

5-2参加してみたい活動・取り組み (図9)

地域居住者が参加したいと感じる取り組みとして、「花や樹木を使った景観づくり」が21回答と最も多く、次いで「夏祭りやイルミネーションなどの季節のイベント」が14回答となっており、地域居住者が自然と調和した落ち着ける環境や、気軽に参加できるイベントを求めていることがわかる。これらの活動により、新宿ゴールデン街が来街者と居住者双方にとって魅力的な場所となり、まちづくり活動の活発化が予測される。特に、地域居住者が求めるイベントは、来街者に認知される要素となり、地域居住者もまちづくりに積極的に関与し、活動の輪が広がっていくことが期待できる。イベントや景観改善を通じて、地域居住者と来街者の両方が参加しやすい環境が整い、まちづくり活動への参加意欲の向上が見込める。

5-3魅力向上のに求められること (図10)

新宿ゴールデン街の魅力を高めるために必要な要素として、「環境整備」が32回答で最も多く挙げられ、次いで「このままでよい」が13回答と続いている。地域居住者の中には、昔ながらの街並みに愛着を感じている人も多く、まちづくり活動により、伝統的な雰囲気を保ちながら環境改善を進めていくことが重要である。

5-4地域居住者の共起ネットワーク (図11)

地域居住者のアンケート調査での自由記述欄で新宿ゴールデン街に求めていることを調査し、計量テキスト分析を行った。32種類の話が抽出され、7群の共起ネットワークが示された。共起03について「雰囲気」「街」「良い」など、地域居住者が新宿ゴールデン街に対して好意的な印象を持ち、それが街としての魅力と結びついていることを示唆している。共起04について「商店」「活気」「独特」など、ゴールデン街の商業的な活気と独自の文化的価値が結びつき、まち全体の魅力を高めている様子を読み取れる。

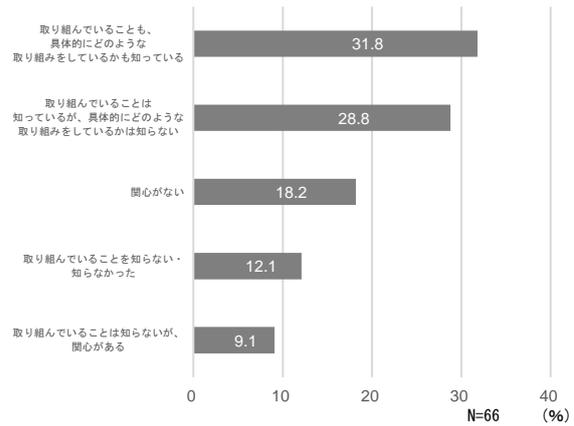


図7 まちづくり活動・取り組みの認知度

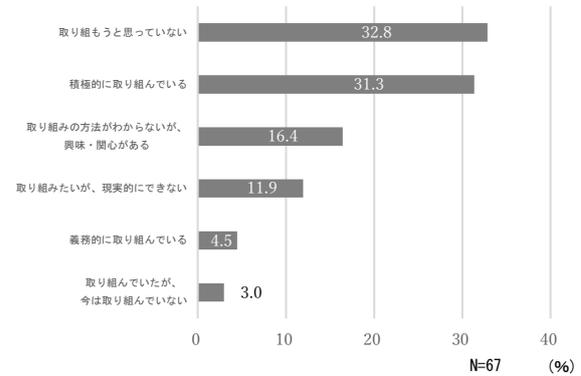


図8 まちづくり活動・取り組みの意欲

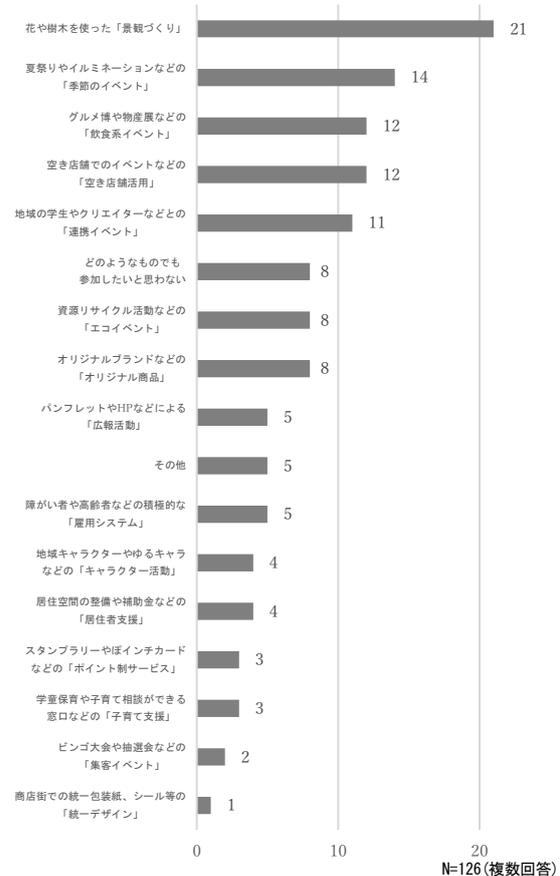


図9 参加してみたい活動・取り組み

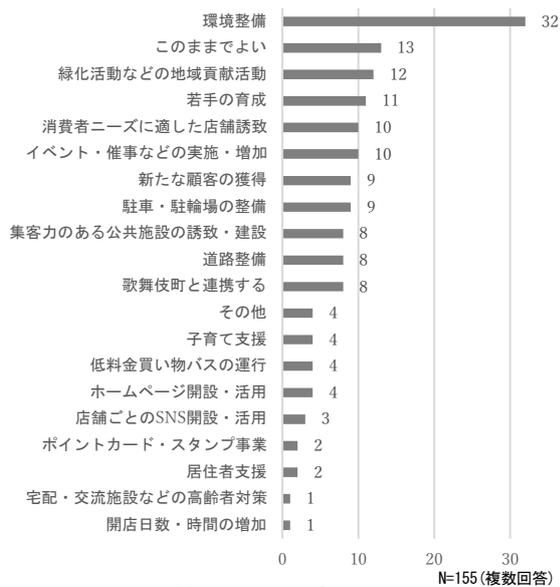


図 10 魅力向上に求められること

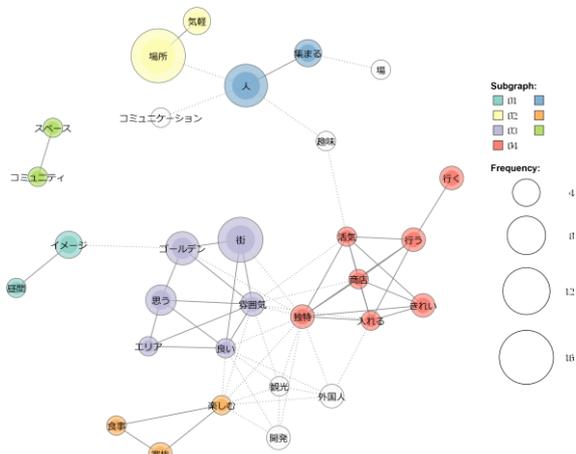


図 11 地域居住者の共起ネットワーク

6. まとめ

本研究で得られた新宿ゴールデン街の価値と持続的なまちづくりについて得られた基礎的知見を以下に整理する。

- 1) 新宿ゴールデン街の満足度は「交通アクセス」や「買い物」、「賑わい」で高評価で、特に「賑わい」に関しては、周辺の店舗や住居の密集が影響している。一方で、「景観」と「安心・安全」に関しては平均的な評価が多く、夜間の賑わいが治安面での不安に繋がっている可能性がある。しかし総じて満足度は高く、多くの地域居住者が一定の満足感を示している。
- 2) 地域居住者の大多数が新宿ゴールデン街に年に一度も訪れないことが明らかになった。また、複数人での利用が多く、単独で訪れることは少ない。これにより、新宿ゴールデン街は日常的な利用の場ではなく、社交の場として認識されていることが示唆される。

3) 新宿ゴールデン街の利用頻度が低いにも関わらず、多くの地域居住者がゴールデン街を大切に思い、今後も継続してほしいと考えていることがわかった。このことは、ゴールデン街が地域における歴史的・文化的な価値を持つと考えられていると推測する。

4) 地域居住者の多くは、地域に対する長期的な愛着と居留意欲が高いことが示されている。

5) 地域居住者が新宿ゴールデン街に期待するのは、賑わいや憩いの場、交流の場といった要素である。また、リモートワークができる環境への関心は低く、ゴールデン街には主に遊びや社交の場としての機能が求められている。

6) 地域居住者のまちづくり活動への関心は比較的高く、多くの地域居住者がその活動を認知している。しかし、活動に参加している地域居住者は少なく、活動意欲に関しては二極化している。活動に関心はあるが方法がわからないと答える地域居住者も存在し、まちづくり活動の情報発信が重要である。

7) 地域居住者が参加したいと考えるまちづくり活動には、自然を取り入れた景観づくりや季節のイベントなどが挙げられている。これらの活動により、新宿ゴールデン街がさらに魅力的な場所となり、地域居住者と来街者の双方が参加しやすい環境が整うことが期待される。

8) 新宿ゴールデン街の魅力を高めるためには、環境整備が必要とされている。また、地域居住者の中には伝統的な街並みに愛着を持っている方もいるため、昔ながらの雰囲気を保ちながらも改善を進めることで持続的なコミュニティを形成できると考える。

9) 地域居住者の計量テキスト分析で、32種類の語が抽出され、7群の共起ネットワークが示された。「雰囲気」「街」「良い」の語句は、ゴールデン街に対する好意的な印象が街の魅力と結びついていること、「商店」「活気」「独特」の語句は、商業的な活気と独自の文化的価値がまち全体の魅力を高めていることを示している。

参考文献

- 1) 赤石健太, 北野幸樹: 繁華街の機能・空間集積と地域コミュニティの相補関係とまちの持続性その1, 第56回日本大学生産工学部学術講演会, pp.658-661.2023.12
- 2) 馬場祐希, 北野幸樹: 繁華街の機能・空間集積と地域コミュニティの相補関係とまちの持続性その2, 第56回日本大学生産工学部学術講演会, pp.662-664.2023.12
- 3) 川原隆平, 北野幸樹: 繁華街の機能・空間集積と地域コミュニティの相補関係とまちの持続性その3, 第56回日本大学生産工学部学術講演会, pp.665-668.2023.12
- 4) 樋口耕一, テキスト型データの計量的分析-2つのアプローチの峻別と合-, 理論と方法